

東海道線の根府川駅から早川駅に向かう道は、車なら当然海沿いの国道を走ればよく、せいぜい 10 分程度で着きます。しかしこの国道は、歩行者には「極めて危険な道」です。簡単に言うと、歩道が存在しないのです。危なっかしくて、とても歩けたものではありません。「自動車専用道」ではない、一般国道なので一度路側帯を歩いてみたのですが、トラックに何度もクラクションを鳴らされて、肝をつぶしました。万が一道端のコケでスッ転んだら、車にはねられて死ぬ可能性もあります。要は「道路交通法上は歩行者も歩けるけど、歩くな危険！」ってことのようにです。

国道を迂回する道はいくらでもあります。しかしそれはミカン畑の中に複雑に配置された農道がほとんどで、幅員も狭く自動車は走っていない道々です。しかし、そういう不遇な道では、珍しい生物に出会えることもあります。先日もそんな道の一つの道端のササ藪（メダケの群落）で、不思議なオレンジ色の物体を発見しました。「ナニコレ〜〜！なにこれ〜〜？」と言ってしまいました。最初は粘菌の変形体だと思ったのですが、それにし

てはどれもメダケの根元を囲むように発生していて、やや乾燥しています。これは、粘菌（変形菌）ではなく、真菌の一種「メダケ赤衣病菌」 *Stereostратum corticioides* だとわかりました。タケやササ類の根元に寄生し、粘土質の子実体や胞子堆を形成するのだそうです。漢名を「竹蓐（ちくじょく）」といい、一名「スズメノタマゴ」とも呼ばれるそうです。これのどこが「雀の卵」なのか、まったく意味がわかりませんが・・・

（2025 年 4 月下旬／小田原市根府川）

